

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第29週 (7/16-7/22) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		29週	28週	27週	26週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	16	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ	27	24	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/16-7/22	7/9-7/15	7/2-7/8	6/25-7/1	7/9-7/15
			29週	28週	27週	26週	28週
小児科	RSウイルス感染症	○	19 1.06	13 0.81	6 0.33	6 0.33	67 0.50
	咽頭結膜熱	↓	12 0.67	11 0.69	8 0.44	6 0.33	177 1.33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33 1.83	44 2.75	51 2.83	45 2.50	389 2.92
	感染性胃腸炎		58 3.22	62 3.88	83 4.61	123 6.83	490 3.68
	水痘		4 0.22	5 0.31	10 0.56	9 0.50	39 0.29
	手足口病		20 1.11	4 0.25	26 1.44	17 0.94	149 1.12
	伝染性紅斑		2 0.11	3 0.19	2 0.11	2 0.11	56 0.42
	突発性発しん		6 0.33	3 0.19	15 0.83	19 1.06	65 0.49
	ヘルパンギーナ	○	61 3.39	34 2.13	33 1.83	14 0.78	482 3.62
	流行性耳下腺炎		3 0.17	4 0.25	1 0.06	3 0.17	33 0.25
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	2 0.07	1 0.04	14 0.07
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎	○	5 1.00	4 0.80	6 1.20	4 0.80	28 0.82
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離・同定
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離同定、 薬剤耐性の確認及び 起因菌の判定	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
	男性	80歳代		百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	中枢神経症状及び高熱	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出

・第29週は、結核1件(103)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(9)、急性脳炎1件(8)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(17)、百日咳3件(69)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第29週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

<咽頭結膜熱> 前週より減少し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多め。

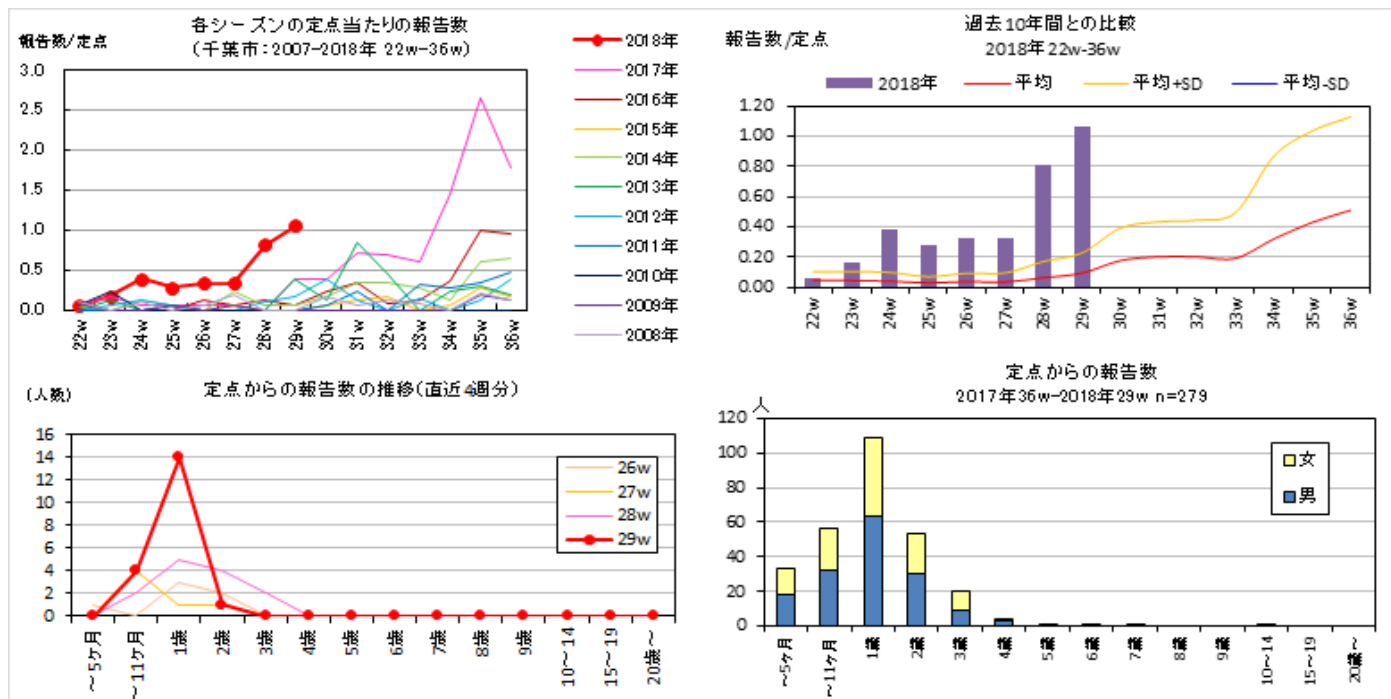
<ヘルパンギーナ> 前週より増加し3.39となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると今後増加する可能性あり。

<流行性角結膜炎> 前週より増加し1.00となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

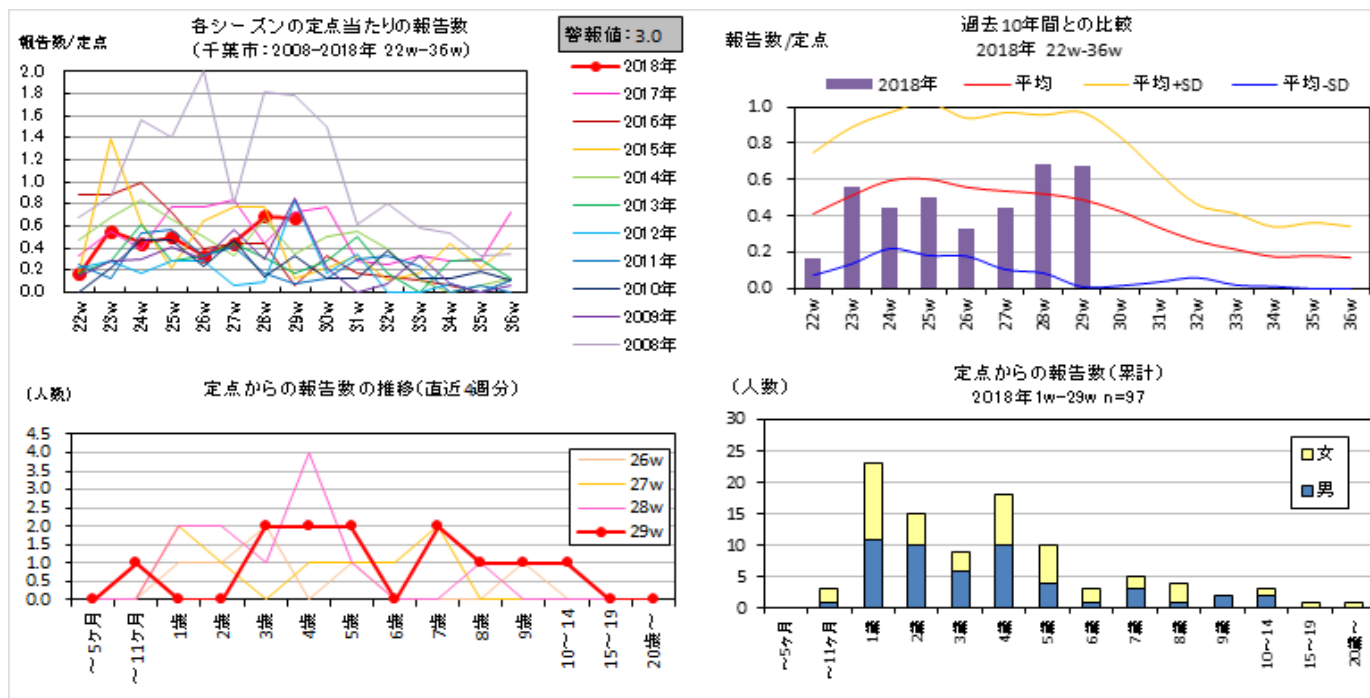
<RSウイルス感染症>

全国レベルは第12週から過去10年の同時期に比べ最多の状態で推移しており、第28週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、徳島県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第29週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると最多のままとされています。区別の発生状況は、美浜区(3.0/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第29週までの累積報告数(n=279)によると、性別では男性が56.3%(157名)、女性が43.7%(122名)で、年齢階級別では1歳(39.1%:109名)、6~11か月(20.1%:56名)、2歳(19.0%:53名)の順で多くなっています。



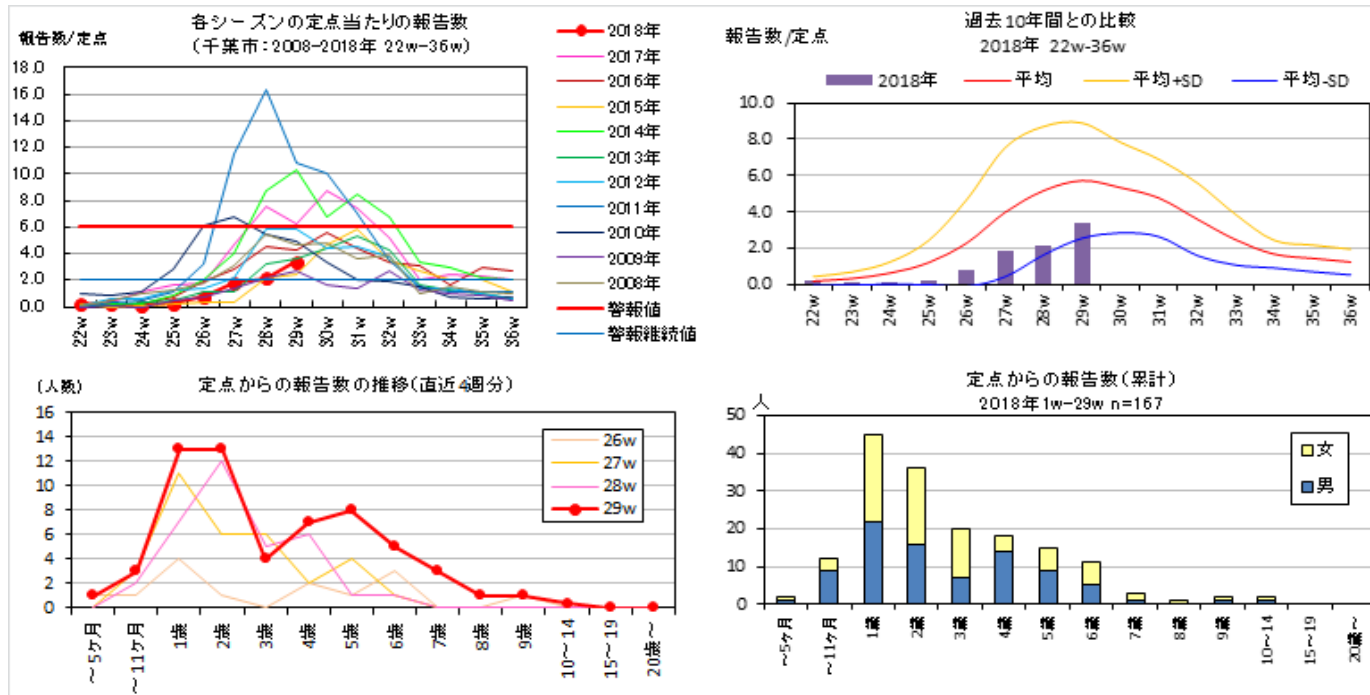
<咽頭結膜熱>

全国レベルの第28週は、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では新潟県、千葉県、山形県の順で多く報告されています。千葉市の第29週は前週より減少し0.67となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は稲毛区(1.33/定点)で最も多く、同区の5歳、7歳、8歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2018年第1週から第29週までの累積報告数(n=97)によると、性別では男性が52.6%(51名)、女性が47.4%(46名)で、年齢階級別では1歳(23.7%:23名)、4歳(18.6%:18名)、2歳(15.5%:15名)の順で多くなっています。



<ヘルパンギーナ>

全国レベルの第28週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では青森県、鹿児島県、福井県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第29週は前週より増加し3.39となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する可能性があります。区別の発生状況は稲毛区及び若葉区(共に7.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最も多く、稲毛区で2歳、若葉区で1歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第29週までの累積報告数(n=167)によると、性別では男性が51.5%(86名)、女性が48.5%(81名)で、年齢階級別では1歳(26.9%:45名)、2歳(21.6%:36名)、3歳(12.0%:20名)の順で多くなっています。



<流行性角結膜炎>

全国レベルは第13週から連続して過去10年の同時期と比べるとほぼ最多の状態では推移しており、第28週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、新潟県、福井県及び長崎県の順で多く報告されています。千葉市の第29週は前週より増加し1.00となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は若葉区(3.0/定点)で最も多く、同区の7歳、20歳代及び30歳代で発生報告がありました。2018年第1週から第29週までの累積報告数(n=66)によると、性別では男性が53.0%(35名)、女性が47.0%(31名)で、年齢階級別では40歳代(18.2%:12名)、30歳代(15.2%:10名)、50歳代(10.6%:7名)の順で多くなっています。

